



令和8年度 7月号 令和8年7月1日

上原だより

渋谷区立上原小学校
校長 佐伯 孝司

<https://shibuya.schoolweb.ne.jp/1310240>

上原小105周年 一致団結!元気いっぱい!盛り上げよう!!

副校長 西村 綾乃

タイトルに書かれているのは、今年度の「上原ふれあいフェスティバル」のスローガンです。代表委員会を中心に意見を募り、今年の目標を決めました。「上原ふれあいフェスティバル」は、子供たちが主体となって創り上げる学校行事です。企画立案・準備・実施（運営）・片付けに至るまで、各学級で話し合いを重ねながら内容を決定していきます。教育活動ですので、守られるべき「約束」があり、その中で知恵を絞って自分たちの企画を実現させていきます。今年度は「資源を大切に、あるものを上手に活用して」を基本として実施されました。



前日のシミュレーションには余念がありません



オンラインによる開・閉会式

当日は、オンラインによる開会宣言からスタートです。前半と後半の切り替えも人数確認をしてリスタートするなど、安全に配慮しつつ、子供たちの運営によって円滑に進められました。閉会の際には「片付けまでが行事である」という意識を共有し、最後までしっかりと取り組む姿が見られました。



事前練習も真剣です



受付して、さあ体験しよう

一年生はお客さんとして参加し、二年生から六年生までが学級ごとの出し物を企画・運営しました。初めて企画に挑戦した二年生は、魚釣りやワークショップ型のブースなど、工夫を凝らした活動を展開していました。六年生は、自分たちで作成した紙幣を使ってアルバイトをしてお金を稼ぐ「めざせ大富豪」や、カジノもどきの「ちょっぴり怖い運試し」など、最高学年ならではのユニークなアイデアとネーミングで来場者を楽しませていました。また、各学級では、リサイクルや再利用を意識してものづくりに取り組みました。身近な材料を工夫して活用する姿が多く見られました。準備の過程では、役割分担をし、一人一人が責任をもって活動に取り組むことで、協力しながら活動を進める大切さを実感する機会ともなりました。どの学年においても、友達と意見を出し合いながら形にしていく過程を通し



どこに行こうかな、何をしようかな



下学年にも分かるように丁寧に説明しよう



て、主体性や協働性を育む貴重な機会となりました。また、片付けに至るまで責任をもって取り組む姿から、子供たちの成長を強く感じることができました。

今後も、こうした子供主体の教育活動を通して、一人一人のよさを伸ばし、互いに支え合いながら学ぶ学校づくりを実践するとともに、自分の興味のあることを追究する探究的な学びを進めてまいります。



後片付けまで責任をもって